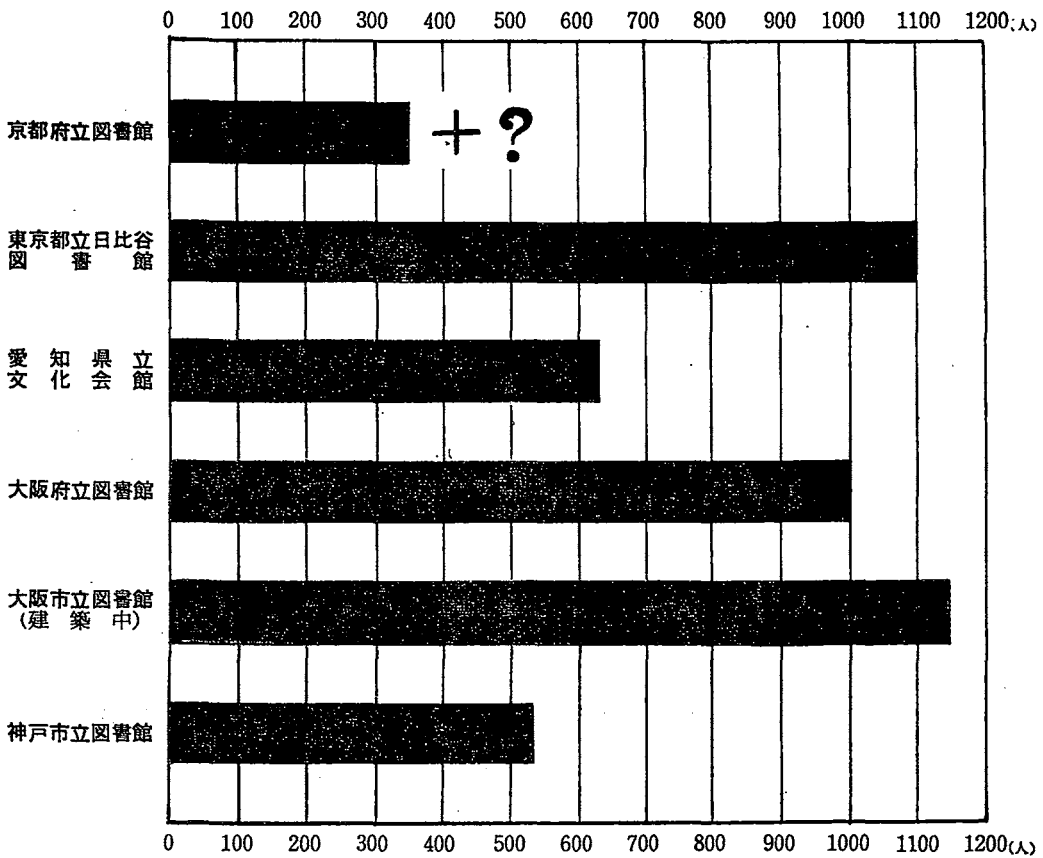


昭和34年度事業報告

(1959. 4. 1~1960. 3. 31)

日本の主要図書館の大きさ (収容人員)



京 都 府 立 図 書 館

京都市左京区岡崎成勝寺町 9 電・吉田(7)0069・2450

1 概 況

岡崎本館の利用者は、3月4月を除き、常に館外にあふれ、甚だしい時には、開館前から、終日行列が絶えないほどである。また蔵書も書庫からあふれて、そのために狭い館内を、ますます狭くしている状況である。

多年待望していた本館の新築の件は、昭和34年度につづいて、35年度の予算において、設計ならびに調査費が計上された。ひきつづき36年度、37年度に工事が実施される予定であり、新館舎において、府民に最善のサービスのできる日もほど遠くない。

2 館内利用者 (本館および市内3分館)

本館および市内3分館における、本年度内利用者総数は、364,103人であった。

年度別の利用者数の動きは、右のとおりである。

年 度	利用者数 (人)	1日平均 (人)
昭和10年度(戦前最高)	129,782	399
昭和31年度	330,915	1,271
昭和32年度	359,323	1,308
昭和33年度	371,464	1,333
昭和34年度	364,103	1,296

3 館外貸出冊数 (地方6分館および貸出文庫)

地方6分館および貸出文庫において、各種団体に対し、長期貸出(期間1か月)を行っている。本年度内の貸出冊数は、68,286冊である。

なお、これらの長期貸出図書は、1カ月の貸出期間中に、各冊平均約3人の手を経て読まれるから、この分の本年度利用者総数は、約205,000人と推定される。

4 京都市内4館の利用者の内訳

	本 館	伏見分館	中京分館	上京分館	合 計
利用者数(人)	237,682	60,292	25,949	40,180	364,103
利用冊数(冊)	250,543	64,870	48,571	54,106	418,090
開館日数(日)	279	283	290	283	—
1日平均利用者数(人)	852	213	89	142	1,296
男 (%)	73	66	89	73	73
女 (%)	27	34	11	27	27
一 般 (%)	12	9	68	8	15
学 生 (%)	88	91	32	92	85

学生の類別は、岡崎本館における調査では

大 学 生 23% 高 校 生 40% 中 学 生 7%
小 学 生 9% 各 種 学 校 21%

となっている。

5 利用図書の内容

岡崎本館の図書利用冊数は、約25万冊で、1日平均898冊である。

これを、図書の分類別にみると右のとおりである。

総 記	2.8(%)	自然科学	11.4(%)	語 学	6.8(%)
哲学・宗教	3.2	工 学	4.2	文 学	14.2
歴史・地理	9.5	産 業	1.8	児 童	19.6
社会科学	10.6	芸 術	3.4	新聞・雑誌	12.5

6 蔵書冊数

昭和34年度末における当館の蔵書冊数は26万冊をこえ、その各館別の内訳は右のとおりである。

本年度における受入図書数は6,803冊（購入=6,013、寄附=508。編入受入=275、数量更正による増=7）。

亡失、き損による払出図書数は411冊である。なを戦時中における貸出図書で回収不能になったもの7,081冊を本年度において除籍した。

本館	220,550(冊)	峰山地方分館	4,742(冊)
伏見分館	6,708	宮津地方分館	4,860
中京分館	5,566	綾部地方分館	4,308
上京分館	5,880	園部地方分館	3,464
		北桑地方分館	2,764
		木津地方分館	3,175
		合計	262,017

7 開架図書の利用状況

岡崎本館では、大閲覧室および学生室の一部に開架書架を設けて、新刊書・基本図書・雑誌をおき、児童室に完全開架制を行っている。開架図書の利用は非常に多く、本館における利用冊数の約8割を占めている。

大閲覧室 約10,000冊 学生室 約3,000冊 児童室 約3,000冊

8 読書相談

図書館の資料が十分利用されるように、専任の係をおき、利用者の質問・相談に応じ、実効をあげてきた。

特に官公庁、会社・工場、報道機関、文化団体、一般社会人による、

口頭	10,568件	郵便	165件	開室日数	279日
電話	2,545件	計	13,278件	1日平均	47.6件

社会生活と密接に結びついた利用が盛んになってきている。今後ますます京都府下関係各機関とも連絡を密にして、サービスの充実をはかりたい。

なお、このために必要な特許庁発行の諸公報類の整備、文献目録の編集なども行なっている。

9 児童室

少年少女のために、よい読書環境をつくることはきわめて大切である。当館は児童室の充実に絶えず力を注いでいる。

本年度の利用児童は18,262名（男56%、女44%）で、図書館附近の小学校の児童が多い。

なお、利用児童が図書委員となって、児童室運営に協力している。

10 分館

(1) 伏見分館（昭和25年2月開設）

伏見地区は、岡崎本館から約8kmはなれ、分館の必要性が大きい。

この分館は、はじめ他の建物の一部を借用して出発し、昭和29年快適な新館舎の落成をまって、移転再開した。敷地260坪、閲覧室70坪、座席120である。独立館舎をもった、初の本格的分館（コミュニティーランチ）として、将来洛南地区文化センターの役割を果す日が期待される。

本年度の入館者数は、1日平均213名、1日最高449名であった。

(2) 中京分館（昭和24年6月開設）

この分館は、当初、丸善京都支店地下室を借用してきたが、丸善支店の都合により、一時閉館、昭和32年6月、烏丸丸太町下ル京都府烏丸庁舎の3階69坪を利用して再開した。

中京分館は、新刊の小説・随筆・新聞・雑誌を中心に、完全開架制をとり、気軽な市民の読書室となることを目標としている。なお中京分館の所在地は、京都商工会議所に近く、商工業者の利用を促進する目的をもって、商工業関係の図書・雑誌・パンフレットの類の収集につとめている。

本年度の入館者数は1日平均89名で、一般人が学生よりもはるかに多く、全体の68%を占めている。特に商工業者、サラリーマンの利用の増加してきたことは喜ばしい。

(3) 上京分館 (昭和26年4月開設)

京都市北部地区も岡崎本館から遠く、ここに上京分館が設置され活動してきた。

昭和31年4月、それまで借用していた紫郊会館から、現在の北区等持院の故木島桜谷画伯の、元画室に移った。移転先は市電と郊外電車の交叉点に近く、周囲は住宅地帯である。新館舎は約60坪で、閲覧席80を有し、広い庭を前に控えて、明るく快適である。

本年度入館者数1日平均142名、1日最高389名であった。

(4) 地方分館

昭和25年に、峰山・宮津・綾部の3館、次いで昭和27年に園部・北桑・木津の3館が開設され、現在6館である。これらの地方分館は、地域内の公民館・婦人会・読書会などの団体に対して、30冊ないし50冊を期間1か月で、団体貸出するものである。

なお文部省国庫補助を得て、「青年学級文庫」を購入し、地方6分館および本館貸出文庫に配して「青年学級」の読書活動を援助している。

館名	利用団体数	利用冊数(冊)
峰山地方分館	464	11,627
宮津地方分館	308	7,116
綾部地方分館	216	9,582
園部地方分館	342	15,722
北桑地方分館	128	7,689
木津地方分館	476	11,098
合計	1,934	62,834

11 貸出文庫

本館内にあり、主として京都市内および近郊の団体に対する貸出を行っている。

本年度における利用団体数158、利用冊数5,452冊であった。

12 経費

本年度諸経費は約20,373,000円で、内訳は右のとおりである。

なお本年度末における館員数は、主事30名、主事補15名、労務員1名、安定化職員5名、計51名である。

費目	金額	比較
人件費	約14,570,000円	71.5(%)
図書館資料費	3,095,000円	15.2(%)
図書費	2,317,000円	11.3(%)
定期刊行物	778,000円	3.9(%)
その他の経費	2,708,000円	13.3(%)
計	20,373,000円	100.0(%)

京都府立図書館所在地一覧

	所在地	電話
本館	京都市左京区岡崎成勝寺町9	吉田(7)0069(庶務・読書相談・宿直) 2450(整理・閲覧・庶務)
伏見分館	京都市伏見区瀬戸物町746	伏見(102) 2584
中京分館	京都市中京区烏丸通丸太町下ル(京都府烏丸庁舎3階)	上 ☎ 0916
上京分館	京都市北区等持院東町56	西陣(44) 9396
峰山地方分館	中郡峰山町字丹波(公民館内)	峰山 232(公民館)
宮津地方分館	宮津市鶴賀	宮津 350(労働セツルメント)
綾部地方分館	綾部市並松(綾部市立図書館内)	綾部 13(綾部図書館)
園部地方分館	船井郡園部町字小桜町	園部 250甲
北桑地方分館	北桑田郡京北町字下中	弓削 40
木津地方分館	相楽郡木津町字内垣外	山城木津 101